Monthly Letter

2017年 4月号 Vol.7 ふくいCOC＋

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あふれるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学

文部科学省 地(知)の拠点

平成28年度　COC＋共同開講科目の履修状況

平成28年度COC＋共同開講科目の履修者数及び単位修得者数は下表の通りとなりました。

＜COC＋共同開講科目の履修者・単位修得者数＞

		＜履修者数＞			＜単位修得者数＞		
	科目数	履修者数	単位互換による履修者人数(内数)		単位修得者数	単位互換による修得者人数(内数)	
共同開講授業	30科目	1,196名	484名	40.5%	984名	377名	38.3%
テレビ授業	1科目	67名	16名	23.9%	62名	16名	25.8%
合計	**31科目**	**1,263名**	**500名**	**39.6%**	**1,046名**	**393名**	**37.6%**

大学連携センター(Fスクエア)等での、履修者数が1,263名と当初予想を大きく上回り、他大学の授業を単位互換により履修した学生が500名と全体の4割弱となりました。

多くの学生が地域志向の授業を受講して、地域の課題や中心市街地を知るきっかけとなるとともに、他大学の学生同士や教員との交流に繋がりました。また、後期に試行したテレビ授業にも67名の受講者があり、平成29年度は5科目へと4科目増加する予定です。

なお、これは県や経済団体の方々、5大学教職員等の協力による結果でもありますので、今後より深い連携が必要と考えております。

特色人材育成部会

福井県眼鏡工業組合と県内大学との懇談会

COC＋では、福井県での学生の就職率を如何に上昇させるかが重要である。福井県の代表的地場産業として金属製眼鏡枠製造業があるが、人材の確保に苦慮している。一方、福井工業大学では、新入学生における県内出身者の割合(約60%)が増加傾向にあり、これら学生の就職先を開拓しなければならない状況にある。また、鯖江市・鯖江商工会議所と相互連携協定を締結し、独自のインターンシップや就職説明会などを開催しているが、顕著な実績を得るまでには至っていない。

これらを考慮し、2月21日に福井県鯖江市のめがね会館にて、COC＋として、(1)インターンシップにおける問題点と改善の方法、(2)大学と企業における学生の就職・採用活動、およびそれらの問題点と改善の方法、(3)産学連携の推進方策について、福井県眼鏡工業組合の役員とCOC＋推進コーディネーターや大学の就職担当者などが意見交換した。同様の意見交換会は昨年度も開催しており、今年度は、具体的な行動計画として、大学での『めがね』講義の開講、県内の眼鏡関連企業に絞った合同企業説明会の開催、眼鏡業界としてのインターンシップ学生の受入れ、『めがね』奨学金の創設などを検討することで意見が一致した。

(福井工業大学地域連携研究推進センター長　羽木秀樹先生より寄稿いただきました。)

福井県眼鏡工業組合と県内大学との懇談会の様子

平成28年度COC＋アドバイザリー・ボードを開催！

3月27日福井大学文京キャンパスで、COC＋アドバイザリー・ボードが開催されました。自治体、経済団体・企業、医療関係者等6名及び5大学の学生8名が参加し、COC＋の地元定着率10%増の目標を実現するために『学生が福井で就職する上で考えるポイント』『何があれば、福井で就職を考えるのか』について、意見交換を行いました。

（意見の一部内容）

- 将来、農業及びそのビジネスを考えているので、土地があるのは魅力。
- 地域の伝統産業について、若いうちに知っていれば県外に一旦出ても、福井へ戻る。また、大人になってからの購買にも繋がる。これも長期的には地域創生に繋がる。授業を通じて知れたことで興味が沸いた。
- Fスクエアで開講されている授業を見ると、1年生から色んな企業の話を聴ける授業があるのでモチベーションも上がるし、企業や福井に興味を持つのではないか。
- 地元の良いところは、県外出身者のほうが分かっていることがある。福井の良さはたくさんある。もっと宣伝をしたら良い。福井の良さを他県の大学で授業をしてみても面白い。やりすぎるくらいに外に宣伝するのも良いと思う。

その他、今回得られた意見・アドバイスを生かし、今後のCOC＋の活動の充実を図っていきます。

意見交換の様子

「日本文理大学・大分県立看護科学大学平成28年度成果発表会及び合同シンポジウム」へ参加

福井工業大学では、COC＋を通してPBL授業など、学生が自発的に学ぶ教育を推進しようとしている。この先駆的な取組みが日本文理大学のCOC事業で行われていることを知り、2月17～19日の日程で情報収集を行った。我々のCOC＋にも関係する重要な知見を次に記述する。(1) COC事業の実施に際し、従来開講されていた授業に“地域志向”を取り入れて、PBL授業としている。(2)事業開始直後からPBL授業を行うのではなく、学修サイクルを確立し、順序立てて実施していくことが重要である。(3)COC事業採択後、地域志向科目を多く導入した結果、新入学生が大幅に増加した。この原因として、学生の地域での活動による「日本文理大学の学生の印象」が大幅に改善されたことと、COC事業の活動内容を記した発刊物を近隣高等学校に配布し、日本文理大学での教育内容が「見える化」されたことが挙げられる。(4)今後、地域志向科目を200科目（全体の40%目標）まで増やすとともに、マンネリ化しないよう新しい地域課題の掘り起こしとマッチングを図る予定である。(5)補助対象事業の実施期間終了後は、学内予算を組み替えて地域課題解決型学習を継続する。(6)自治体からの財政援助は期待できないが、人的物的援助は大きい。また、地域住民から学ぶことも大きい。(7)COC事業に取り組むことにより、学生の学習効果が大きいとともに、地域の活性化にも寄与していると実感される。(8)学生を効果的に教育することの重要性が教員間に認識されてきた。

平居孝之日本文理大学学長の挨拶

（福井工業大学地域連携研究推進センター長　羽木秀樹先生より寄稿いただきました。）

平成29年度版「ふくい地域創生士パンフレット」が完成！

平成29年度版として新しい「ふくい地域創生士」パンフレットが完成しました。

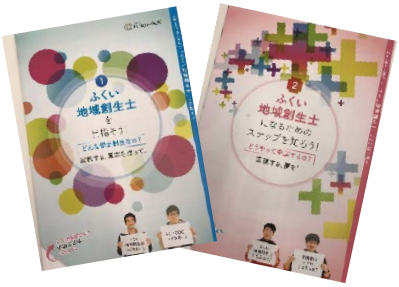
今年度は来年（平成30年）3月に最初の「ふくい地域創生士」が認定されることとなるので、「認定を受けるにあたって何をすべきか」を意識した内容とし、

①「ふくい地域創生士」を目指そう！（認定制度の概要）

②「ふくい地域創生士」になるためのステップを知ろう！（認定要件と申請方法）

の2部構成となっています。

認定された学生の皆さんが地域から資格にふさわしいと認識され、就活のインセンティブになることを期待しています。



編　集　後　記

新年度が始まりました。授業がスタートし、新入生や在学生で大学がにぎわっていることにうれしい気持ちや、生協が大変混雑しているためお昼ごはんを買うのに必死な気持ちなど、さまざまな気持ちを感じています。学生のみなさんも同じようなことを感じているのかなと思いながら、日々過ごしています。福井で初めての春を迎えた私は、桜の名所など散歩をしながら福井を探索しています。素敵なところをたくさん発見して、県外の友人へ発信していければいいなと思っています。（折笠）

〔発行者〕福井大学総合戦略部門COC推進室
〒910-8507　福井市文京3丁目9番1号　Tel:　0776-27-9945　　E-mail:　coc-p@ml.u-fukui.ac.jp